

東京大学工学部研究員 正員 工博 佐々木 民雄
 東京都立大学工学部 正員 工修 堀田 新太郎
 東京大学工学部研究員 正員 久保田 進

まえがき

昭和48年7月29日より8月23日までの26日間、九十九里海岸不動産にて、海水浴に関する実態調査を実施する機会を得た。^{り2)} 8月3日と4日の土、日曜日に実施した交通量調査のうち自動車登録ナンバー区域調査における登録地区の代表地点は表-1に示すように定めた。不動産海岸からの直線距離を誘致圏と定義し、自動車累加%との関係を図示したところ図-1の様な直線関係が得られた。たまたまこの関係は鈴木、中島³⁾が昭和43年に三浦海岸で得たデータと一致した。それ故、このような関係が他の海水浴場にも存在するのかどうかに興味を持たれたこと、また昭和48年末より、いわゆる石油危機を経験したがこれが海水浴場への自動車による来場如何に影響を及ぼしているかも興味深かったので、昭和49年8月、第1、2週の週末に九十九里海岸でも地点、及び江の島において来場自動車の登録区域の調査を行った。その結果を報告する。

調査結果とその考察

調査結果を表-2に示す。表-2は次のような事柄を示している。(1) 九十九里海岸へ自動車で海水浴に来る客は、主として、千葉、東京、埼玉、神奈川の一都三県より成る。(2) 神奈川より千葉へ海水浴のために渡る自動車は相当数あるが、千葉より神奈川へ渡る車は非常に少ない(その他の項に入る)。これは九十九里海岸が外洋に面し、湘南海岸に比べて、波が荒く、海水浴には必ずしも適切ではないにもかかわらず、関東水域で最も汚染の程度が低い海岸であるということと、湘南海岸は週末に特に混雑することによる。つまり、きれいな水を求め又雑踏を避けて神奈川から千葉へ出向いたものと思われる。(3) 飯岡、野栄の両海岸は茨城県に近いにもかかわらず、茨城からの車はほとんどない。これは県境を流れる利根川が千葉と茨城の交通を妨げる障害となっていると判断できる。(4) 概に多くのデータが示しているように石油危機による自動車交通量の減少は一時的なものであった。48年度と49年度における不動産での調査の比較は、レクリエーションとしての海水浴には石油危機もあまり関係なく、相変わらず自動車を利用しているという事を示している。

各地点の調査結果と、表-1に示したように各登録区域の代表地点を選び、各調査地点までの直線距離を誘致

表-1 登録地区代表地点

登録地区	代表地点
千葉	千葉駅
習志野	津田沼駅
足立	錦糸町駅
品川	品川駅
練馬	池袋駅
横浜	横浜駅
埼玉	大宮駅
立川	立川駅
相模	相模原駅

	千葉まで	足立まで	a	b
飯岡	51 km	84 km	0.67	15
野栄	44	72	0.84	7
通沼	37	65	1.38	26
不動産	33	61	1.23	20
白子	32	61	1.0	5
一の宮	37	64	0.9	6

$$y = ax + b$$

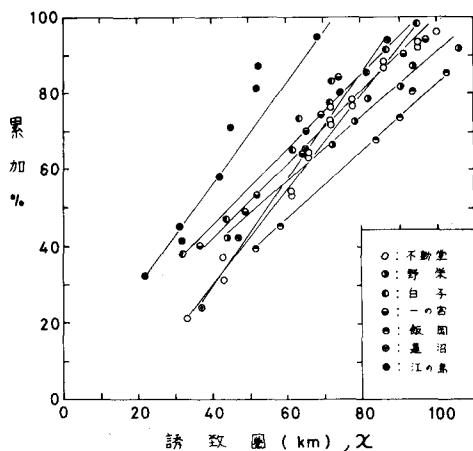


図-1 自動車累加%と誘致圏

図として図示したものが図-1である。図-1より次の様な事例が指摘される。(1)地点によっては、かなりのバラツキがあるが、いずれも集加%と誘致圏の関係は直線で表すことができる。(2)直線の勾配は各地点にて異なる。特に九十九里海岸においては、中央部を境として北へ上る程、南に下る程勾配は少くなるのは興味深い。この直線の勾配を決定する要因、および九十九里海岸に

おける勾配の傾向が何を意味するのかは現在のところ不明である。(3)不動堂海岸における48年、49年の調査結果は全く同一の直線となる。(4)九十九里海岸へ海水浴にくる自動車の約95%は100Km以内より、また江の島では70Km以内の区域より来ている。

一般にある海水浴場へ来るある登録区域の自動車の数はその登録区域の登録自動車数に関係があると考えられる。表-3は昭和49年度8月末の各地域の自動車登録台数を示す。この台数と各海水浴場で得られたデータとの関連性については現在のところ未知である。

謝辞

昭和49年度の調査には原口久利氏(日本工営)から全面的な協力を得た。同氏の協力に深謝致します。表-3のデータは東京陸運局資料登録課に提供いただいたものです。厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 運輸省第二港湾建設局横浜調査設計事務所：九十九里海岸性状調査報告書，昭和49年1月。
- 2) 佐々木民雄・堀田新太郎・五ヶ巻元・久保田進：海洋性レクリエーションに関する研究(第2報)，第21回海岸工学講演会論文集，1974。
- 3) 中島直樹：東京工業大学社会科学部卒業論文，昭和44年3月。

表-2 自動車登録ナンバー調査結果

地名	不動堂	不動堂	飯岡	達沼 南浜	白子	野栄	一の宮	江の島
調査日	S.48	S.49	S.49	S.49	S.49	S.49	S.49	S.49
ナンバー	8/5	8/3	8/4	8/10	8/10	8/4	8/10	8/11
千葉	174	127	122	24	115	255	97	-
習志野	125	99	15	18	25	66	21	-
足立	168	108	28	23	54	80	38	120
品川	83	50	16	8	25	38	16	355
練馬	108	52	18	7	14	35	25	209
横浜・相模	33	29	7	5	14	18	7	453 横浜 382 相模
埼玉	101	61	11	8	25	37	15	149
千葉	28	36	7	1	18	25	6	253
その他	-	52	24	6	11	53	17	120

表-3 自動車登録台数(昭和49年8月末)

	自家用小型乗用車	乗用車総数	登録自動車総数
品川	371,721	439,873	632,907
足立	242,271	300,757	507,203
練馬	287,969	350,581	497,750
千葉	340,632	401,660	501,405
横浜	404,045	479,710	621,481
相模	249,498	293,828	377,442
千葉	250,043	301,946	422,134
習志野	130,241	159,194	213,707
埼玉	454,577	569,811	726,651